

来年度から地域枠選抜導入

地元就職条件に授業料減免



左から北川氏と下田氏

神戸薬科大学は、2024年度の入学から地域枠選抜を開始する。鳥取、島根、高知、福井の4県の高校生らを対象に試験を実施し、最大計10人を選抜する。大学卒業後に地元で薬剤師として働くことを条件に、在学中の授業料を3分の1に減免するほか、住居費

神戸薬科大

などを支援する。地域医療への貢献という同大の理念に基づいて導入を決めた。各地方の自治体や薬剤師会とも連携し、薬剤師偏在対策につなげる。授業料を大幅に減免する地域枠を導入したのは、私立大学では明治薬科大学に続き2校目。

来年2月の一般選抜と同日に地域枠選抜の試験を実施し、成績上位順に学生10人を選抜する。試験は一般選抜と同一の学科試験のほか、面接を実施する。学生の質を担保するため、足切りラインを設ける。一般人試等と合わせた24年度の募

集人員は、前年同期比10人増の計280人となる。地域枠選抜の入学者には、年間授業料180万円のうち120万円を減免する。住居面でも支援し、女子学生には女子寮費を無料、男子学生には寮費相当分の費用などを減免する。減免は、同大が負担する。

地域枠選抜の条件として、試験に合格し、9年間は地元の病院や薬局などで薬剤師として勤務することも義務づけた。各条件を満たせなかった場合、授業料減免分のほか、寮費支給分の全額を支払ってもらう。鳥取、島根、高知、福井の4県からは例年計40〜50人が入試に応募し、計10人以上が入学する。一定のニーズがあると見込み、地域枠選抜の対象地域に選定

は、同大が負担する。地域枠選抜の条件として、試験に合格し、9年間は地元の病院や薬局などで薬剤師として勤務することも義務づけた。各条件を満たせなかった場合、授業料減免分のほか、寮費支給分の全額を支払ってもらう。鳥取、島根、高知、福井の4県からは例年計40〜50人が入試に応募し、計10人以上が入学する。一定のニーズがあると見込み、地域枠選抜の対象地域に選定

した。

語る。

地域枠選抜の学生には、定期的に帰省の機会を設ける。地元の薬剤師不足の現状や課題、働きがいを知り、地域医療に貢献する気持ちを養ってもらいたいと考えて、地方自治体や薬剤師会と連携して病院や薬局などを訪問できる機会を作る。ふるさと実習を必須とし、就職マッチングの場なども設ける予定だ。

北川裕之学長は「卒業後は地元の病院、薬局で働くことが必須になる。学生のうちから毎年交流の場を設け、地元の現状を知って気持ちを高めてほしい」と

入試を担当する薬品化学研究室の上田昌史教授は「経済的な理由で薬学部を受験を断念する人もいるが、国立大学と同程度の学費で学べるようになる」と語る。地域枠選抜導入は、大学の理念に掲げる地域医療への貢献の取り組みの一環。大学にとっては軽くない負担になるが、長期的には得られるものは大きいと見られる。北川氏は「地域医療に貢献する卒業生の姿を見て、優秀で志の高い学生に1人でも多く入学してもらいたい」と期待を込める。